KIITO NEWSLETTER 034

連載企画

神戸ぐらしはじめました。
○○さんの神戸めし：丸山倫寛さん
世界のデザイン都市ガイド［バンコク］

思考を耕すデザイン
＋クリエイティブゼミで学べ！

デザイン・クリエイティブセンター神戸では、2012年の開館より、デザインの視点で社会的課題を解決する方策を導き出す「＋クリエイティブゼミ」を開催しています。課題を解決していくプロセスを体験するこのゼミの特徴は、多様な人々とのグループディスカッションを通して、様々な視点を吸収しながら自分自身の思考を耕し、デザインの持つ可能性を理解すること。そして、受講生たちから生まれたアイデアを、アイデアのままで終わらせず事業化（アクションプラン）に繋げることにあります。
今回の特集では、教育や高齢者福祉、食、子育て、防災、観光など、様々なテーマで開講してきたゼミのこれまでの取り組みをご紹介します。

これは、KIITOの「＋クリエイティブゼミ」から生まれました。

ふくガチャ

複数の障害者福祉サービス事業所が企画、製作した商品をガチャガチャで販売する「ふくガチャ」。
ゼミvol.28から実現。

チャイルド・ケモ・ハウス チャリティウォーク

小児がん専門治療施設「チャイルド・ケモ・ハウス」のPR、活動支援を目的としたチャリティイベント「チャイルド・ケモ・ハウス チャリティウォーク」を2012年より毎年開催。ゼミvol.1から実現。

date. KOBEプロジェクト

神戸におけるデート文化を醸成させながら都市ブランディングへとつなげていく「date. KOBEプロジェクト」。ゼミvol.11から実現。

〈男・本気の料理教室〉スパイシーな男の・カレー教室

プロの料理人からカレー作りのスキルを学ぶプログラム〈男・本気の料理教室〉スパイシーな男の・カレー教室から、カレー男（だん）を育成。
ゼミvol.26から実現。

仮設のピザ窯

公園の活用やコミュニティづくりのため、公園で仮設のピザ窯を設置する「公園でピザしよう」。ゼミvol.12から実現。

「観察のカガク」展

「デザインのための観察」の基本的な考え方を学ぶ講座で実践したトレーニングについて紹介する展示「観察のカガク」を開催。ゼミvol.25から実現。

●ゼミの流れ

学ぶ → **グループディスカッション** → **発表** → **アクションプランの実現**

学ぶ
講師によるレクチャーを通し、テーマとなる課題について学びます。ゲストレクチャーなども開催。

グループディスカッション
世代や立場、職業も異なる参加者同士がグループディスカッションを行い、対話を通して多様な視点や考えを吸収しながら、課題解決の方法を考えます。

発表
グループごとにアクションプランを発表します。講師によるプランの講評とともに、そのアイデアを実現するための提言を行います。

アクションプランの実現
実現可能なアクションプランを課題提案者とともに実装します。

神戸ぐらしはじめました。

神戸への移住、最近増えているそうです。
神戸に越して間もないあの人に、気になる質問をぶつけてみました。

14人目

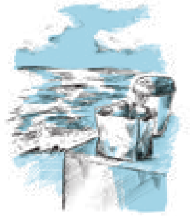
橋本健史さん
関野阿希子さん
（橋本健史建築設計事務所）

神戸歴：5カ月（取材時点）

神戸に生まれ、横浜、浜松、東京を経て、コロナ禍を機に塩屋の一軒家へ引っ越し。「神戸の建築家になる」との意志のもと、道を歩けばクリエイターに出会う、人と自然が豊かな塩屋にて夫婦で建築事務所を営む。

Q.神戸へ引っ越して最初にやったことは？

健史さん：古い家なので最低限住めるようにするため、僕が先に越して来て、畳を捨てたりペンキを塗ったりと準備をしました。日用品などは別として、一番最初に必要なものはテーブルと椅子だと知りましたね。机があれば食事や仕事もできて、文化的な生活が始められる。どろどろの床に座っていると気が滅入るんですよ（笑）。神戸の印象は、どこかと比較するわけでもなく、「よそはよそ、うちはうち！」という態度が心地よいです。そこにある環境の中で何ができるのか、どう楽しめるのかを実践してみることが大切ですよね。



イラスト：安藤友美（KIITOスタッフ）

阿希子さん：パンとコーヒーを買って海辺へ行きました。引越しで張り詰めていた気持ちが、海を眺めるうちにすっと落ちついたのを覚えています。家業があったので諦めていましたが、自然が近い場所で暮らすことに憧れがありました。神戸は海と山が近く、街もあって凝縮されたジオラマのような印象があります。自然と生活が地続きの塩屋に越してから、わざわざレジャーへ出かけなくても、身近にたくさんの楽しみがあると知りました。

丸山倫寛さんの 神戸めし

いせやの「チャーシュー麺」

6年前、まだ農業学校に通っていた頃からよく訪れているというラーメン屋で丸山さんが注文するのは、チャーシューが豪快に盛られたチャーシュー麺。新しいお店を開拓することはあまりしないらしく、月1くらいのペースで通うという。「畑を手伝ってくれた人へのお礼代わりで連れてきたりもしますよ」と話す丸山さんは、午前の畑仕事の疲れを癒すように美味しそうに麺をすすっていました。

中華そば いせや［神出町］
兵庫県神戸市西区神出町田井914-9

14.丸山倫寛さん
（fresco.fresco）

「神戸野菜学」をはじめ、KIITOの食関連イベントで多数講師を務める、神戸市西区の農家さん。

5問でわかる

世界のデザイン都市ガイド

デザイン都市って何？世界の「デザイン都市」担当者に共通の質問を投げかけて解きほぐします。第21回は、クルンテープ（天使の都）とも呼ばれるタイの首都、バンコクから。

Q1「ここぞデザイン都市！」というスポット / Q2バンコクのまちを舞台にした作品のおススメ / Q3最近、一番驚いたこと / Q4ハマっていること / Q5デザインをひと言でいえば

Vol.21 タイ・バンコク ｜ Bangkok

1 クリエイティブ・エコノミー・エージェンシー（CEA）とタイ・クリエイティブ・デザイン・センター（TCDC）。タイ政府が設立した組織というだけでなく、政府が創造性とデザインの重要性を認めていることを示す「場」だからです。

2 映画『バンコク・トラフィック・（ラブ）ストーリー』。チャオプラヤー川をはじめ、博物館、公共交通機関、定番のローカルアトラクションであるプラネタリウムなどが登場します。

3 「バンコクデザインウィーク」で、都市開発のプロトタイプを実験するために集まった、地元のデザイナーや専門家たちの共創のパワーに驚きました。そのひとつ「Common Air-rea project」は、環境工学と再生可能エネルギーを組み合わせた建築・ランドスケープデザインで、PM2.5が多い季節に空気のきれいな共有スペースを作るための実験でした。

4 緑地を増やすこと。都市開発で緑地を増やすことは、環境、気候変動、食料の安全性、創造性、クリエイティブツーリズム、健康と福祉など、さまざまな次元で都市に影響を与えるからです。

5 Depend（信頼する／頼る／頼む）。

答えてくれた人

Nat Nuttawee Tangnoiさん
クリエイティブ・エコノミー・エージェンシー（CEA）、創造都市開発部門のシニア・ストラテジック・プランナー。

今号のデザイナー ｜ 芝野健太 1988年大阪府生まれ。美術・建築にまつわる印刷物のグラフィックデザインから印刷設計・工程監理まで行う。www.kentashibano.com

KIITO NEWSLETTER
VOL.034

2021年10月発行

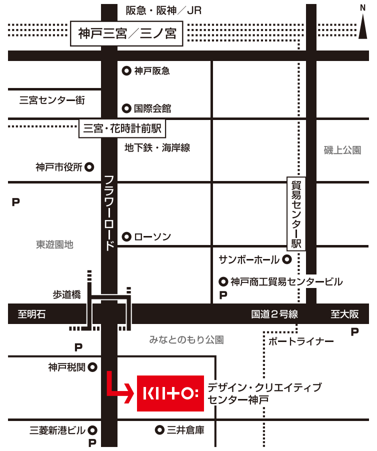
「KIITO NEWSLETTER」は、
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）が
年４回発行する情報誌です。
センターのコンセプトである+クリエイティブな
活動を発信していきます。

発行：デザイン・クリエイティブセンター神戸
編集：竹内厚[Re:S]、KIITO出版部
デザイン：芝野健太

新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムが変更となる場合がございます。
最新情報はWebサイトをご覧ください。

ACCESS
阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より
フラワーロードを南へ徒歩20分
国道２号線を超えた神戸税関東向かい
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分
※一時利用駐車場13台あり

CONTACT
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）
〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4
TEL：078-325-2235
E-mail：info@kiito.jp
開館時間：9:00-21:00
休館日：月曜日（祝日、振替休日の場合はその翌日） 年末年始12/29-1/3
https://kiito.jp/



思考を耕すデザイン——+クリエイティブゼミで学べ！

「+クリエイティブゼミ」のこれまでの開催回数は36回。のべ参加者は1058人、24のプロジェクトがゼミから実現しています。

年度	vol	プロジェクト概要	実施回数／参加人数	
2012年度	1	**「夢の病院をつくろうプロジェクト」** 協力＝NPO法人チャイルド・ケモ・ハウス、公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金、夢の病院をつくろうプロジェクト　講師＝永田宏和	10回 40名	認知度アップと活動支援を目的に「チャイルド・ケモ・ハウス チャリティウォーク」の開催を実現。2012年より毎年開催（20、21年はオンラインプログラムに）。
	2	**デザイナーをデザインする。** 講師＝松岡賢太郎（トリトングラフィックス、アートディレクター）	11回 10名	
	3	**ニュータウンの「オールドタウン化」問題について考える。** 協力＝神戸市須磨区役所、神戸市都市計画総局（現：住宅都市局）、高尾台・水野町地区まちづくり協議会　講師＝永田宏和	10回 32名	須磨区高尾台のこどもたちが、夏休みに地域の公園で防災キャンプを実施。地域の方がサポートして、茅葺きや火起こし体験、防災訓練などさまざまなプログラムを取り入れながら、毎年開催を続けている。
2013年度	4	**子育て支援パワーアッププロジェクト** 協力＝神戸市こども家庭局　講師＝永田宏和、佐々木博（メディアファシリテーター）	10回 39名	ゼミ参加者を中心としたメンバーによる「kiiro project」が子育て支援をテーマとしたプログラムを実践。活動団体間のネットワークや地域との連携を深めながら活動を継続している。
	5	**デザイナーの次のかたち** 講師＝サノワタル（いろいろデザイン、プロデューサー）	10回 22名	
	6	**Body Tuning ~KIITOからだゼミ~** 協力＝一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント　講師＝小寺麻子（ダンサー）、坂本公成（振付・演出家）、Monochrome Circus	10回 26名	
	7	**神戸発：日常的にも活用される津波避難情報板を企画する** 協力＝神戸市危機管理室、NPO法人プラス・アーツ　講師＝永田宏和	10回 24名	視覚的にわかりやすい鳥瞰図を用いた津波避難情報板を三宮センター街他に設置。また、市内各所の案内板に山と海の方向や海抜が一目で分かる津波シールを提案し、掲示された。
	8	**「子ども×ケータイ研究所」“子ども”と“携帯電話”の今とこれからについて考える** 講師＝永田宏和	10回 15名	
2014年度	9	**神戸市消防局と、若い世代向けの新しい防災プログラムを開発する。** 協力＝神戸市消防局　講師＝永田宏和	9回 35名	
	10	**ちびっこうべの“まちづくり”を考える** 講師＝槻橋修（ティーハウス建築設計事務所、神戸大学）、永田宏和	4回 46名	
	11	**神戸デート研究会** 協力＝谷本奈穂（関西大学 総合情報学部教授）、関西大学 谷本研究室　講師＝永田宏和	6回 21名	神戸におけるデート文化を醸成させながら都市ブランディングへとつなげていく「date.KOBEプロジェクト」を現在も継続。
	12	**これからの公園のあり方について考える。~高齢化するニュータウンにおける公園を事例にして~** 協力＝神戸市建設局公園砂防部計画課、神戸芸術工科大学長濱研究室　講師＝長濱伸貴（ランドスケープデザイナー、E-DESIGN）、永田宏和	9回 31名	公園で組み立てる仮設のピザ窯セットをマニュアル付きで制作。神戸市内各所へ貸し出して、実際にピザイベントが実施されている。
	13	**神戸発：自分で食べる“食”の勉強をしよう！** 講師＝米山雅彦（パンデュース）、John Moore（SEEDS OF LIFE）、宮嶋望（農事組合法人共働学舎新得農場）、金谷智之（おおや高原有機野菜部会）、室町秀夫（MCフードスペシャリティーズ）、山田悟（北里大学北里研究所病院）、浄慶拓志（大徳醤油）	10回 20名	
	14	**発想のスタートライン** 講師＝近藤聡（明後日デザイン制作所、グラフィックデザイナー）、久慈達也（DESIGN MUSEUM LAB、デザインリサーチャー）	5回 26名	
2015年度	15	**地球温暖化対策プロモーション大作戦！！** 協力＝神戸市環境局　講師＝上田壮一（Think the Earth）、永田宏和	10回 24名	トークイベント「KOBE ECOSHIP! TALK」を企画し、連続開催。
	16	**神戸まちラボCASE01「医療産業都市」** 協力＝神戸市企画調整局 医療産業都市・企業誘致推進本部　講師＝永田宏和	10回 30名	神戸医療産業都市のPRイベントとして、iPS細胞の展示やスタンプラリー、ワークショップなど、体験・参加型のプログラムを実施した。
	17	**ものづくりのデザインを見つめなおす。** 協力＝神戸市産業振興局工業課、CEMENT PRODUCE DESIGN LTD　講師＝金谷勉（CEMENT PRODUCE DESIGN LTD.）、高田晃一（高田製作所）、高橋剛（ground works）、永田宏和	3回 39名	
	18	**これからの公園のあり方について考える part.2「公園×健康」** 協力＝神戸市建設局公園部計画課　講師＝佐藤健（公益財団法人 日本レクリエーション協会）、永田宏和	10回 17名	
2016年度	19	**神戸まちラボ CASE02 つなぐデザイン ~市街地西部地区（兵庫区南部・長田区南部）の豊饒化をめざして~** 協力＝神戸市企画調整局政策企画部調整課　講師＝藤浩志（美術家、藤浩志企画制作室）、永田宏和	10回 35名	
	20	**新しいパンをつくる** 協力＝AnyTokyo　講師＝石川俊祐（IDEO Tokyo、デザインディレクター、プロダクトデザイナー）、高橋真人（AnyTokyo／ディレクター、建築家）、田中雅人（AnyTokyo／プロデューサー）、福原志保（BCL／アーティスト、研究者、開発者）、西川功晃（サ・マーシュ）、米山雅彦（パンデュース）、壷井豪（ケルン）　コーディネーター＝永田宏和	7回 23名	
	21	**ちびっこうべのまちを考える** 講師＝槻橋修（ティーハウス建築設計事務所、神戸大学）、永田宏和	8回 23名	
	22	**道路の未来を考える2 実践編** 協力＝神戸市建設局道路部　講師＝西尾京介（日建設計総合研究所 NSRI）、永田宏和	5回 8名	
	23	**公園と地域をつなぐ仕組みを考える** 主催＝神戸市建設局公園部計画課　講師＝永田宏和	3回 17名	既存の公園をつなぐ仕組みとして「PARK DAY」を提案。ゼミ生による実験イベントを開催した。
2017年度	24	**まちづくり連続講座「都市の魅力アップ」** 協力＝神戸市住宅都市局　講師＝鳴海邦碩（大阪大学、関西大学）、泉英明（ハートビートプラン）、山下裕子（広場ニスト）、篠原祥（ARC地域力研究所）、藤村浩一（阪急電鉄）	4回 149名	
	25	**観察のカガク** 講師＝久慈達也、近藤聡	5回 24名	
	26	**“風の人”になるための“種”の作り方を学ぶ実践ゼミ part.1「パンじい、洋裁マダムにつづく、高齢者がワクワクできるプログラムを考える」** 講師＝永田宏和	4回 30名	〈男・本気の料理教室〉にて、スパイスの調合から学ぶ「スパイシーな男の・カレー教室」を開催。カレー男（だん）が誕生した。おうちカレーとは一味違った本格キーマカレーを習得。
	27	**“風の人”になるための“種”の作り方を学ぶ実践ゼミ part.2「仮設のピザ窯に続く、まち公園をみんなの場所にするためのプログラムを考える」** 講師＝永田宏和	4回 20名	
2018年度	28	**「障害者福祉サービス事業所」とそこで製作される「ふれあい商品」の未来をデザインする** 協力＝神戸市保健福祉局　講師＝永田宏和	8回 42名	障害福祉サービス事業所のできることや商品を一覧でき、仕事の発注が生まれることを目的とした、事業所カルテウェブサイト「ふくしワザ」を立ち上げた。また、さまざまなオフィス内に販売ボックスを設置し、事業所で作られた商品を購入できる仕組み「ふくペコ」を導入。新規設置先も開拓中。「ふくガチャ」もこのゼミから生まれている。
	29	**記録する映像から記述する映像へ「映像日記 Videograph Diary」** 協力＝神戸芸術工科大学　講師＝曽和具之（神戸芸術工科大学）	4回 20名	
2019年度	30	**「リサーチ・リテラシーを学ぶ」例題1：「図書館の未来を考える」** 講師＝山崎吾郎（大阪大学COデザインセンター）、永田宏和	5回 29名	
	31	**観察のカガク実践編：デザインの観察ノート** 講師＝久慈達也、近藤聡	5回 20名	
	32	**人口減少時代の豊かな暮らしを神戸でデザインする** 協力＝神戸市住宅都市局（現都市局）　講師＝永田宏和	7回 30名	これまでとこれからの神戸の骨太の取り組みを一つにまとめ、国内外に発信する神戸市のブランディングとして「RE:KOBE」を提案。ロゴマークなどを制作した。
	33	**神戸流の多文化交流のプラットフォームを考える** 協力＝神戸市国際課、神戸国際協力交流センター　講師＝永田宏和	5回 22名	
2020年度	34	**「リサーチ・リテラシーを学ぶ」例題2：「With/Postコロナ社会のライフスタイルを考える」** 講師＝山崎吾郎、永田宏和	6回 20名	
	35	**空き家の新たな活用方法を、地域豊饒化の観点から考えてみる** 共催＝神戸市すまいとまちの安心支援センター　講師＝大川輝（POS建築観察設計研究所）、永田宏和	7回 25名	実際の空き家を対象として、「地域豊饒化」につながる空き家の活用方法を提案。
2021年度	36	**フラワーロードを軸にSDGs共創イベントを考える。** 講師＝山崎吾郎、永田宏和	10回 24名	神戸大学、大阪大学でも同じテーマのゼミを実施し、合同発表会を開催した。

これまでの参加者：1058名

参加者の声（vol.19）

Mさん（50代／主婦／vol.11・19など参加）

他府県から神戸へ移り住んだ私には、ゼミはとても探求心を刺激される課題ばかりです。同じ課題に向け、机上のみならず、リサーチのため現地を訪れるなど、気が付けば強いチームワークが生まれています。気付きの多い、有意義な時間でした。そして、社会的存在を地元のまちづくりで考えた時、デザインの大切さを改めて実感しました。

＋クリエイティブゼミの二つの意義

永田宏和（KIITOセンター長）

実践型の連続ワークショップである「+クリエイティブゼミ」には、二つの重要な意義がある。一つは、課題をオープンにし、公募型で広く市民からゼミ生を募集することで、地域社会にはあまり存在しない多世代かつ様々な立場の市民が一堂に会し、課題解決に取り組む新たなプラットフォームを形成していることである。もう一つは、このゼミを通じて、課題解決のためのアクションプラン（種）を企画できる新たな担い手（風の人）を育成していることである。

現在開催しているSDGsをテーマとしたvol.36のゼミでは、2023年秋にフラワーロードを舞台とした地域共創イベントの開催を目指し、グループごとに対話を重ねている。今後は、KIITO内にオープンした新拠点「KIITO:300」を舞台に、これまでゼミで紡ぎだしてきた「種」を神戸の街に蒔くとともに、ゼミを継続、発展させながらさらなる「風の人」の育成に努めたい。

参加者の声（vol.13）

矢野 賢さん（54歳／神戸市役所 都市局 臨海整備事務所／vol.13など参加）

もう10年近く前になるのかな。KIITOがまだ準備室だった頃に足繁く通っていました。私は、今まで行政で様々な業務に携わってきましたが、KIITOでの経験を経てからは「やるべきこと」「やりたいこと」を明確にイメージして仕事ができるようになったと思います。仕事柄、様々なシーンで、ここで学んだ知識や経験、技術、そして人脈を大いに活用させていただいています。

ゼミを振り返ってみて

加藤慧（+クリエイティブゼミ担当）

ニュータウンのオールドタウン化をテーマにしたvol.3のゼミでは、対象地域のまちづくり協議会メンバーにも協力いただきました。中間発表では、協議会メンバーの方々から「そんなアイデア、すでにわしらも考えたわ！」「もっと驚くアイデアを期待していたのに…」と、辛口コメントが…。その後、協議会メンバーが考えたものの実行できなかったアイデアや夢を語りはじめ、それをどうすれば実現できるかを議論する方向にシフトしました。その後も同地域との関係が続いています。

毎回感じるのは「このゼミは、正しい答えより、楽しい答えが、より正解です。」というクリエイティブゼミのコピーが、やっぱりいいな〜と思います。

参加者の声（vol.26・27）

岩崎大輔さん（40歳／会社員／vol.25・27参加）

今まで見えなかった神戸市の問題を知ることができ、その問題に対しての解決に向けて参加される様々な年代の方々とのコミュニケーションで自らの視野が広がり、普段の仕事でも活かされています。参加したおかげで趣味も増えました。

参加者の声（vol.28）

和田武大さん（デザイナー／39歳／vol.28など参加）

多様な参加者と一緒に考える時間がいつも楽しく、それ以来、ゼミの虜です。ふと、振り返ると、ゼミ参加以降は仕事で誰かと共に考えること、つくることが多くなったように思います。話す人、書きまとめる人、たまに話す言葉が芯をつく人、調べる人…それぞれがいるから育つ。完璧なものではないけど、なにか光るものを感じ、班に生まれる「シナジー」。それまでは、ひとり完結や社内完結だった仕事が、それ以降、だれかと協働していることが増えたと思います。

参加者の声（vol.35・36）

芝 光彩さん（21歳／大学生／vol.35・36参加）

最初は名前も顔も知らない人が集まるゼミですが、回を重ねるごとにその人だからこその提案、立場から思うことなど私ひとりでは絶対に思いつかないことが生まれます。時々、ジェネレーションギャップを感じますがそれでさえも楽しい！ 面白い！そうなんだ！とコミュニケーション力や他者理解力も自然と身につきます。

KIITO: NEWS & TOPICS / 2021 Autumn

What's on

エントランスにラウンジが登場。KIITO初のショップも

センターの顔となるエントランスをリニューアルしました。休憩やリモートワークに利用できる〈クリエイティブラウンジ〉、オリジナルグッズやクリエイターとのコラボレーショングッズを販売する〈KIITO SHOP〉がオープン。六甲山間伐材を使用するなど自然素材を取り込んだ開放的な空間に生まれ変わりました。生糸検査所時代の趣ある家具もポイントとして活用しています。

利用時間：11:00〜19:00
利用料金：無料
※ミーティングスペースは、当日に1Fインフォメーションにて予約可
KOBE Free Wi-Fi（無料公衆無線LANサービス）設置
設計：曽我部昌史、長谷川明、丸山美紀、吉岡寛之

KIITO SHOP ©いとう写真

News

本と人との出会いを生む、図書館について考える

2022年夏より5年間にわたって神戸市立三宮図書館がKIITO内に移転します。そこで、知の拠点である図書館との連携企画として、出会い・交流・創造をテーマにしたトークシリーズをスタート。第1回は、人と本との距離を縮めるため、様々な場所でライブラリーの制作をしているブックディレクターの幅允孝さん、“はたらくをらくにする”図書館、札幌市図書・情報館を立ち上げた淺野隆夫さんをお迎えし、お話を伺います。

第1回「豊かな出会いを生む、図書館のかたち（仮）」

2021年11月21日（日）14:00〜15:30
会場：KIITO 3F 303
登壇：幅允孝（ブックディレクター、有限会社BACH代表）
淺野隆夫（札幌市中央図書館）
モデレーター：鈴木千尋（神戸市立三宮図書館館長）、永田宏和（KIITOセンター長）
参加：無料
主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸、神戸市立三宮図書館

©藤田一浩（左）

Report

速く走れる靴をチームでつくってみた

株式会社アシックスを講師に迎えた連続ワークショップを開催しました。靴の仕組みや足の観察、ランニングフォームの指導など、プロから速く走るために必要な要素を学び、チームに分かれて速く走れる靴を考えてモックアップをつくりました。設計した靴をアシックスの工場で実際につくってもらい、最終日には完成した靴を履いてタイム測定や発表会を行いました。

ASICS＋KIITO:300キャンプ シューズデザイナーになってチームで「速く走れる靴」を開発しよう！

2021年8月17日（火）〜20日（金）、30日（月）、9月23日（木・祝）
主催：株式会社アシックス
共催：デザイン・クリエイティブセンター神戸